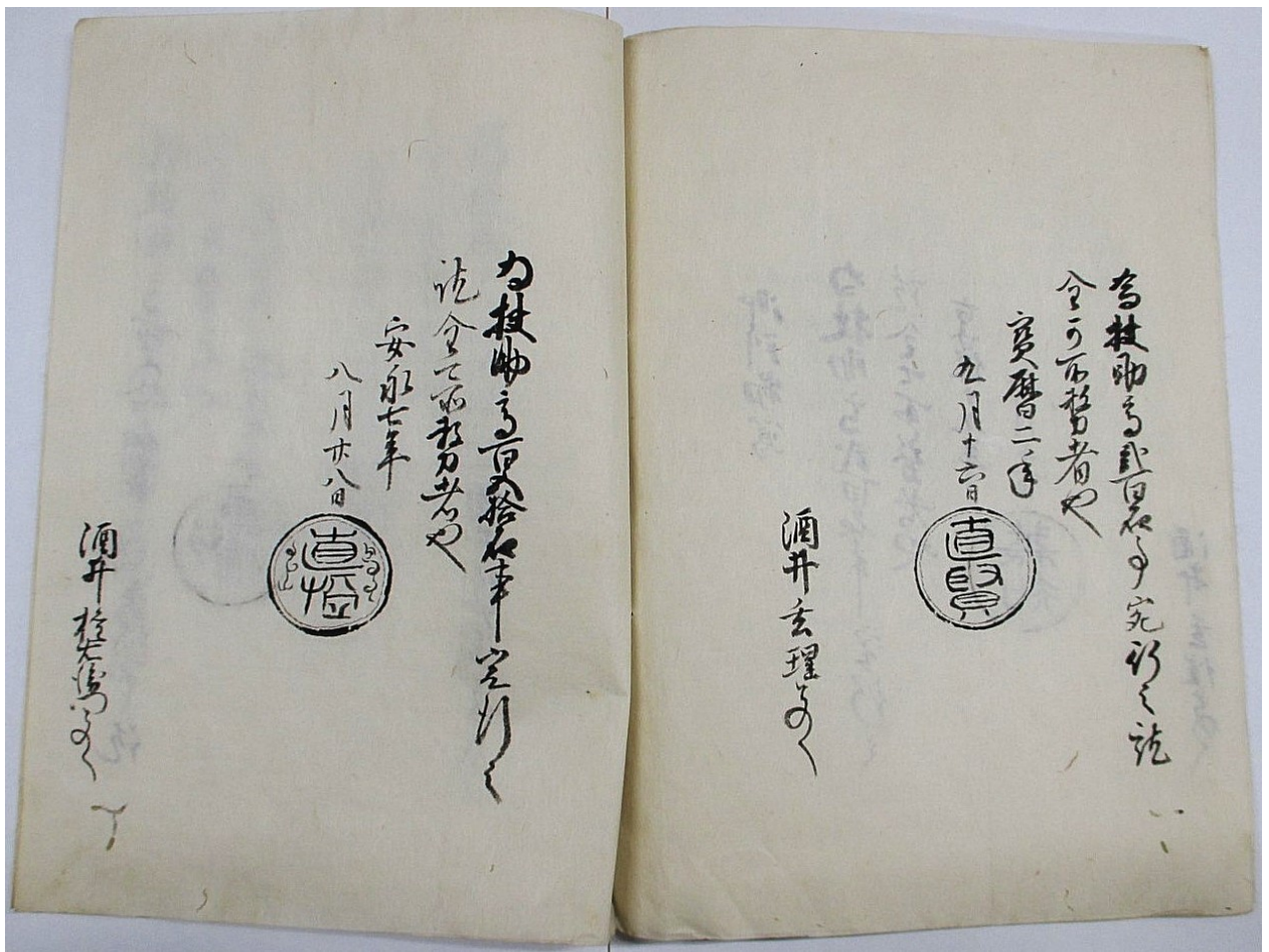


⑫ 〔焼失ごはんもつに付酒井家代々領主よりの御判物写并母方河合より伝わり候物写し〕

文政8（1825）年2月

本史料によれば、先祖酒井権右衛門まつしろ さなだ ゆきみちは信州松代藩主真田幸道の家臣でしたが、元禄年中に故あって浪人となり、その子玄理龍好が医師となつて、享保15（1730）年松平義知あきのり（明矩）に200石5人扶持ぶちで召し抱えられたとあります。そして歴代当主の松平義知・直賢ともりのり（朝矩）・直恒なおつね・直温なりのり・斉典あてがいじょうから与えられた宛行状が書き写されています。



【史料⑫】〔焼失に付酒井家代々領主よりの御判物写并母方河合より伝わり候物写し〕

為_二扶助_一高弐百石事、充_二行之_一訖（おわんぬ）、
全可_二所務_一者也

宝曆二年

九月十六日

（直賢・黒印）

酒井玄理とのへ

為_二扶助_一高百五拾石事、充_二行之_一
訖（おわんぬ）、全可_二所務_一者也

安永七年

八月廿八日

（直恒・黒印）

酒井権右衛門とのへ